

リフォーム・リメイクの縫製指導

Sewing Guidance of Reform・Remake

菊 永 典 子

1. はじめに

平成14年の学習指導要領の改訂により、被服製作学習の扱いが大きく変化し、中学校では選択履修としての扱いとなり、高等学校「家庭基礎」では学習内容に含まれなくなり、従って、中学校、高等学校でも被服製作を経験しないで、大学に進学する学生が少なくない時代となっている。

そのような状況にあり、短大でも以前の被服製作課題に比較すると、ずいぶん軽減してブラウス、スカートの製作のみとしている。それでも学生にとっては難易度が高すぎるようであるが、せめてこの2点の製作は残しておきたいとこだわっている状態である。

これらを製作することで基本の技術・知識を習得し、さらに、既製服等を個性的にアレンジ、リフォーム、リメイク等の応用に生かしてほしいと願っている。また、着られるものを一着作るということはいかに苦勞し、根気のいるものかという体験、投げ出さないうで頑張った後の達成感、自信は今後生きていく上での糧となるのではと考える。

とは言え、今後ひとりで着る物を一から製作することは今の時代ではなかなか考えられないので、学生にはリフォーム・リメイクに興味を持ってもらい、その技術を身につけてほしいと願っている。前報¹⁾で、リフォームに関するアンケート調査とリフォーム実践活動を報告した。その実践活動においては、ペンケース、スカートの補修、ポーチ、ブックカバー等の製作であった。

今回も学生の被服製作経験、製作してみたい物などの調査を行い、またリフォーム・リメイク実践活動のお誘いをしたところ、4人の参加があり、同様の実践活動をしたのでその報告をする。

2. 短大生の被服製作経験と実習状況

2013年4月、短大1年生64名に、今までに製作経験のある作品はどんなものだったかを書きあげてもらった。その集計結果は表1に示した通りである。

そのうちの家政系高校出身の学生5人(8%)は、浴衣、スーツ、女兒服、ブラウス、パンツなど多くの洋服関係作品を製作経験している。その他は家政系でない高校出身の学生であり、学校によって製作作品はまちまちである。

表1 製作経験のある作品名とその割合

作品名	割合 (%)	作品名	割合 (%)
エプロン	55	ペンケース	8
ナップサック	45	ぬいぐるみ	8
トートバッグ	22	洋服関係作品	8
ティッシュカバー	22	壁掛け	6
ハーフパンツ	19	その他、 人形、キーケース、メガネケース、 ブックカバー、三角布、お弁当袋、 なべつかみなど	
きんちやく袋	16		
エコバッグ	14		
クッション	13		
じんべい	13		

表1の通り、エプロン、ナップサックの製作が大多数であり、次いで、トートバッグ、ティッシュカバーなどが多かった。ハーフパンツ、じんべいなどの着られ物も多少見られた。

次に、2006年(103名)、2009年(82名)に行った同様の調査^{2)、3)}と比較してみると、表2の通りである。

表2 製作経験のある作品名とその割合 (%)

2006年		2009年		2013年	
エプロン	66	ナップサック	84	エプロン	55
ゆかた	35	エプロン	70	ナップサック	45
ナップサック	28	ティッシュ		トートバッグ	22
ハーフパンツ	17	カバー	29	ティッシュ	
洋服関係	10	クッション	24	カバー	22
手さげ袋	8	ハーフパンツ	24	ハーフパンツ	19
ティッシュ		手さげ袋	16	きんちやく袋	16
カバー	5	子供じんべい	12	エコバッグ	14
		まくらカバー	6	クッション	13
				じんべい	13

表2より、エプロン、ナップサックが大半であり、エプロンは2006年に66%だったが、2009年に70%、2013年には55%と減少傾向である。また、ナップサックは、2006年に28%、2009年に84%、2013年に45%となっている。

いずれも2009年に割合が多かったのは、2006年にゆかたが35%あったものが、その後、姿を消したことからエプロンかナップサックへの教材変更と思われる。

いずれにしても、エプロン、ナップサックは扱いやすい教材として取り上げられているようだが、全体の半数にとどまり、明らかに減少の一途をたどっている。その他、ティッシュカバー、袋物、クッションなどによりいろいろな小物製作に移っているようである。

また、小・中・高といずれもエプロン作りだったという学生もいる。ただハーフパンツだけが20%程度続いていることはありがたい。

さらに、度重なる学習指導要領の改訂で被服製作が選択となり、また実習時間も減少され、その教材も半縫製品と言ってエプロンにポケットを付けるだけというものとか、浴衣の片袖を付けるだけというものもある。このような状況下では、短大生たちの被服製作に関する知識・技能がどんどん低下してきているのはやむをえない。

ところで、この学生たちはどのような思いで、被服実習を選択履修しているのかと問うと、やったことがないからとか、できないからという理由の学生も多い。その学生たちには実習課題としているブラウスと裏つきスカートの製作は難易度が高すぎるようである。こんなに難しいとは思わなかったと嘆いている。したことがないからこそ、もっと簡単に作れるものだろうと安易に考えすぎた感もあると思われる。なんとかこの2作品はやり遂げても、まだまだ一人で何かを作って被服製作を楽しめるほどの自信、実力をつけるには十分ではない。そこで、もう少し作りやすく技術も磨け、十分達成感も味わえ、自信を付けるためにも、副教材となるような小物を探している。やりたい学生には授業時間外にでもやらせてあげたい。何でも好きなものを作ってみましょうと誘いかけている。

3. 被服製作実習担当者の奮闘

学習指導要領の改正が度重なり、どんなに被服製作実習が軽んじられようとも実習担当者は必死に頑張っている。平成14年（中学校）および15年（高等学校）から実施された学習指導要領において、被服製作が中学校では選択履修の内容とされ、さらに高等学校「家庭基礎」では扱わないこととなった。

このような状況となり、小・中・高の家庭科教員を中心とする研究団体「全国家庭科教育協会（ZKK）」では、平成20年に、今後の授業改善の資料とすることを目的として、被服製作学習の教材を中心とした調査⁴⁾を行っている。それによると、高等学校の「家庭基礎」の担当者の75%が被服実習を実施されていたということである。家庭科教員は授業時間の少なさ、知識・技術の個人差、縫製機器の管理などに関わる多くの課題を抱えながらも、「ミシン縫いや手縫いの習得」、「生活実践力」、「創造の喜び・完成時の達成感の体験」、「生活文化を継承する力」などを生徒に身につけさせたいといろいろ工夫をこらしながら被服製作に取り組んでいる。

また、「短期大学における衣服関連実習の効用」と題した大阪国際大学・西岡敦子氏の論文⁵⁾によると、その短大でも年々学生の負荷を軽減させる方向で内容の変更を余儀なくされている状況が書かれていた。前期に以前は女物浴衣製作であったが、難しくなり、肌襦袢に変更、さらに、産着とインサイドベルト、ファスナー開きの裏無パンツとカード織りのベルトに変更し、現在では、甚平とカード織りのベルトと変更している。後期には以前は裏つきスカートであったが、仮縫いを含めた裏無しのベストとスウェーデン刺繍の

テーブルセンターと変更している。そのほか学生各自が希望する自由課題作品の指導と数を減らしていかざるを得ない部分縫いの指導をされているという。

この内容の「衣服構成実習」を履修した卒業生の履修感想アンケート調査結果があった。主だったものを挙げると、受講時の「辛さ」、「楽しさ」については、下記の通りであった。

「辛さ」…… 「基礎縫いが大変だった」「やり直しが辛かった」

「楽しさ」…… 「友達とワイワイ」「先生や友達に会える」「友達と話しながらの作業」

「作品が出来上がっていく楽しさ」「やりきった時のかなりの自信」

「うまくいった時の達成感」

次に実習で身に付いたと思うもの、伸びた能力、気づいたことについては、「達成感」が一番であり、「日常的な補修が身に付いた」、「衣服の構成がわかった」、「ミシンの縫製技術」などの実習本来のものと、「計画性の大切さ」、「実習を乗り越えて自信がついた」などが上位に挙がっていた。

次に卒業後によかったと思うこと、役に立っていることについては、「日常的な衣服の補修」、「衣服購入時に縫製チェックを行うようになった」などの本来の実習目的に沿うもの以外に「根気強さ」、「辛抱強さ」、「耐え抜くことの大切さ」、「精神面で強くなった」などであった。

筆者が思うに、これらは、常に実習に携わっているものがそうあってほしいと願い、頑張らせている目標である。何回も何回も失敗して縫ったりほどいたり、今にも泣き出しそうな学生もいる。その学生が頑張り抜いて完成時に見せるあの笑顔こそが物語る人間教育の場となりうる実習の良さであろう。

また、被服実習は2006年に経済産業省が提唱した「社会人基礎力」に通じるものがあると言える。

「失敗しても粘り強く取り組む力」、「計画力」、「規律性」、「目標に向けて協力する力」、「ストレスコントロール」などにあたり、また、「達成感」を感じることによって「自信」がつき、生きる上で大切とされる「自尊感情」の向上にも役立ち、生きていく上での糧となるであろう。

また、実習は講義では得られない人間関係を構築し得るし、特に、衣服関連実習は真に教育する環境を整えられる一つの間であると考え。衣服実習は基本的に個人で作る作業で個人対応であるから、能力の個人差を補講という形で埋めていくことができる。手間暇かけて生きる力の能力向上に対応可能なことを示している。知識や技能を身に付けさせることのみならず、ものづくりで人間が育まれていくのである。

以上、被服製作実習の意義と重要性および被服製作実習担当者の取り組みを挙げたが、

まさに実習担当者はこの目標を達成するために、難しくなるばかりの実習状況にも耐え、精一杯奮闘している。

4. 製作を希望する小物類

今の短大生にとっては、ブラウス、スカート製作はかなり難しい課題のようである。もう少し負担が軽く、楽しく作れて、達成感も得られるような、また技術も身に付き、より自信も付けられるような小物作品はないだろうか。学生はどんなものなら作ってみたいのだろうか。副教材にもなりうる小物作品例を検討している。

そこで、何か作ってみたい小物などがあるかどうか尋ねてみたところ、表3に示す通りであった。

表3 製作してみたい作品とその割合

作品名	割合 (%)	作品名	割合 (%)
ポーチ	14	バッグ	5
アクセサリ	9	ケータイ入れ	5
ティッシュケース	6	ペンケース	3
くまのぬいぐるみ	6	帽子	2
シュシュ	6		

つまり、袋物等が約33%、アクセサリ物が15%、その他ぬいぐるみ等が8%程度であった。

また、中・高生向けに刊行された「基礎から応用までの作品集」⁶⁾の中で興味を示したものは、

- ・布製ハンガー（針金ハンガーのリメイク）
 - ・ペットボトルカバー（梱包材をリユースして）
 - ・コサージュ（リボンや残り布で作る）
 - ・出し入れ便利なペンケース
- などであった。

簡単なもので日常使えるものなら、何でもいろいろ作りたいと答えた学生もいる。しかし、何かを作ってみたいと答えた学生は人数的には少数であり、小学校以来の苦手意識が根強い学生が多いように思われる。さらに放課後とかの授業時間外にしましようとなると、なおさら少なくなり、そこまでやってみたいという意欲はなかなか望めない。課題のブラウス製作で力尽き、余力が残ってないとも言えそうだが、数人でも作りたいと思う学生には精一杯伝えてゆきたいと思っている。

5. リフォーム・リメイク実践活動

今回は有志4人の実践活動となった。そのうちの3人は家政系の高校ではなく、あまりし

たことはないが、興味があり、手作業が好きで、器用にこなせる学生である。もう1人は家政系出身で、縫うことが大好きで、5時間でも6時間でもぶっ続けて作業のできる非常に根気強い学生であり、とても器用で丁寧である。

まず、3人はブラウス製作の残り布でシュシュを作ることになった。1人は手持ちの残り布で帽子作りである。

5-1 シュシュの製作

① 基本シュシュの作り方⁷⁾

① 用意する物

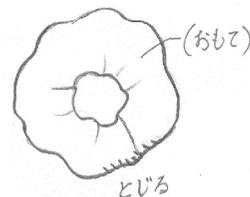
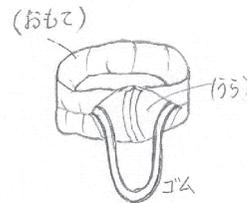
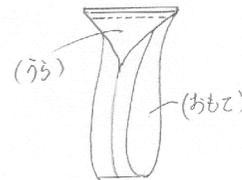
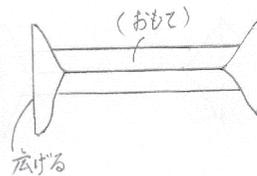
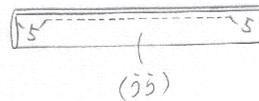
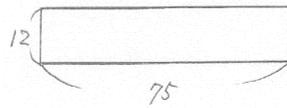
布12×75cm、ゴムテープ0.8幅18cm

② 中表に二つ折りにして1cmの縫い代でミシン縫いする。(両端5cm程縫い残す)

③ 布を表に返し、両端の縫い残し部分を広げる。

④ 広げた両端をそろえて、1cmの縫い代でミシン縫いをする。

⑤ ゴムテープを通して輪にする。
縫い残している縫い代を折り込み、
とじ合わせて出来上がり。

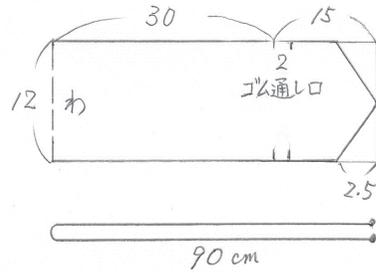


⑧ リボンシュシュの作り方⁸⁾

(例1)

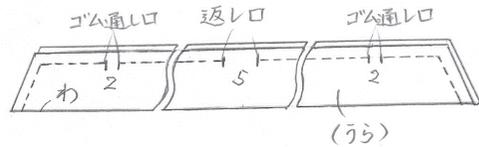
① 用意する物

布12×90cm、ゴム20cm



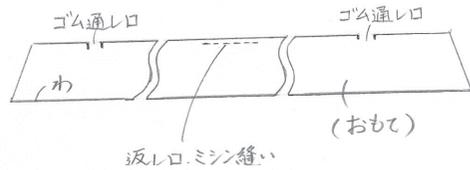
② 布を横方向に中表に二つ折りにして、1cmの縫い代で縫う。

ただし、ゴム通しを2か所、2cmずつ縫い残し、中央付近で返し口5cm程縫い残しておく。



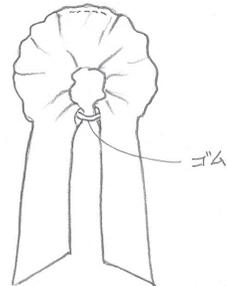
③ 表に返し、返し口はミシンで縫う。

ゴムはゴム通し口から入れて輪にする。



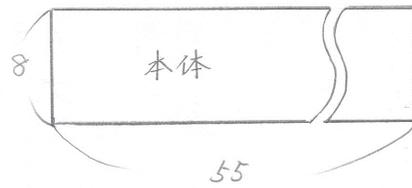
④ リボンの先をひと結びにして出来上がり。

布を裁断する時にリボン部分の15cmを30cm程に長く用意するとリボン結びのシュシュもできる。

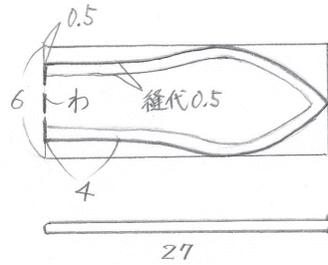


(例2) 基本シュシュ+リボン

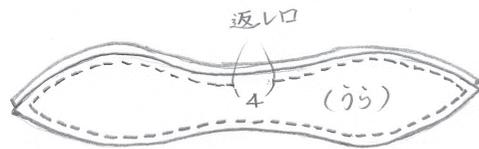
- ① 本体の基本シュシュの布を裁断して
 (A)の作り方で仕上げる。



- ② 右図のサイズでリボンの布を2枚裁断する。



- ③ 中表に合わせて0.5cmの縫い代で縫い合わせる。返し口として4cm縫い残す。



- ④ 表に返して返し口をとじ合わせる。

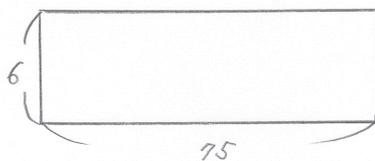


- ⑤ 基本シュシュの本体の中心にリボンを通して一結びする。

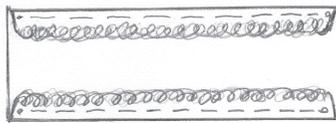


③フリルシュシュの作り方 (レース入り) ⁸⁾

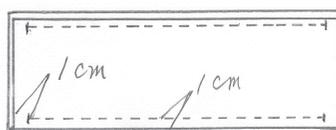
① 右図のサイズの布2枚用意する



② 1枚の布の表側にレースを中央に向けてし
つけで留めておく。

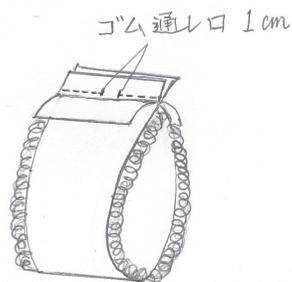


③ もう1枚を中表に重ねて、1cmの縫い代で
両端1cm手前の印まで縫い合わせる。

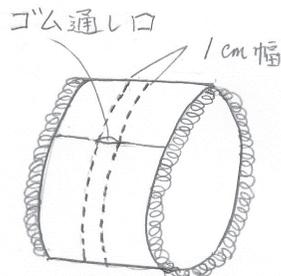


④ 表に返して、レースを留めた布の両端を
重ね合わせて輪にし、1cmの縫い代でミシ
ン縫いをする。(中央1cmゴム通し口を縫
い残しておく)

その縫い代割り、もう1枚の布の両端は折
り込んでとじ合わせる。



⑤ 表輪になったシュシュの中央にゴム通し
幅1cmのミシステッチを入れて、ゴムを
通して、出来上がり。



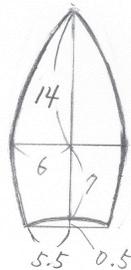
5-2 帽子の製作⁹⁾

用意する材料

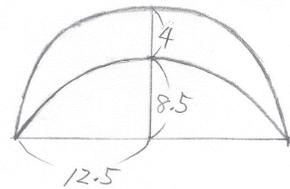
綿布 100cm幅 1.2m

接着芯 60cm幅 40cm

クラウンの型紙



ブリムの型紙

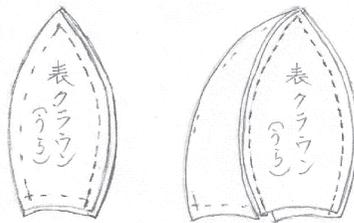


- ① クラウンの型紙で縫い代1cmを加えて、表クラウン用6枚、裏クラウン用6枚、計12枚をバイヤス断ちで裁断する。

(今回は浴衣の残り布であった。)

まず、2枚を中表に合わせて、右側を印までミシン縫いをする。次にもう1枚を合わせて、右側をミシン縫いする。

順番に6枚を続けてクラウンの出来上がり。裏クラウン用6枚も同様にして縫い合わせる。

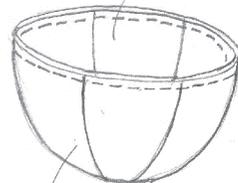


裏クラウン(おもて)

- ② 出来上がった表クラウンと裏クラウンを中裏に重ね合わせる。

(中綴じをしておくとうよい。)

がぶり口は印を合わせて2枚をとじ合わせておく。



表クラウン(おもて)

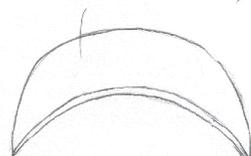
- ③ ブリムの型紙で1cmの縫い代を加えて表ブリム、裏ブリムの2枚を裁断し、接着芯を貼る。

その2枚を中表に合わせて外側周囲をミシン縫いする。表に返してアイロンでブリムを仕上げる。

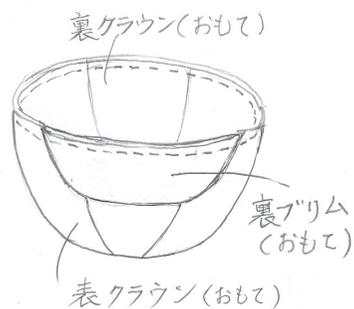


表ブリム
(うら)

表ブリム(おもて)

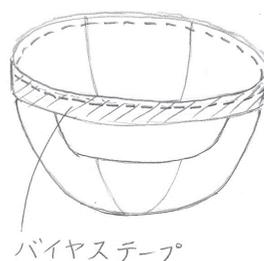


- ④ クラウンの出来上がり線にブリムを重ねて付ける。



さらに、バイヤステープを重ねてミシン縫いをする。

バイヤステープは裏に折り、裏ブリムにまつり縫いをして出来上がり。



赤の浴衣地の試作後、黒のウール地で目的の帽子を製作した。これにコサージュも作って飾る予定と次々頑張っている。



6. まとめ

学習指導要領の改訂により、今の短大生の多くは被服製作の経験がずいぶん少なくなっている。作ったことがないから作ってみたいと被服実習を履修したという学生が多く、やはり、何かを製作してみたいという気持ちは強いようである。

しかし、ブラウス・スカートの製作は相当難しい課題となっている。この課題は難しすぎると、最近ではやめたという大学の話もよく聞くようになってはいるが、昔のことを考

えれば、これだけは経験させてあげたいとこだわっているのである。でも、もう少し負担が軽く、楽しく作れて、達成感も得られ、技術も身に付き、自信も付けられるような小物作品、副教材となりうる小物作品を検討している。

そこで、学生が喜んで作りたくなるものを探るためにもリフォーム・リメイク実践活動をしている。

今回はシュシュと帽子であったが、シュシュは簡単なものから凝ったものまで、また作り方もいろいろあるが、基本シュシュが一番簡単な作り方で、だれにでもすぐできる。ブラウス・スカートの製作課題には個人指導が欠かせないため、その順番待ちの時間を利用して製作する副教材としてこのシュシュ製作を取り入れたいと考えている。簡単とは言え、一度作ってみないと何でも意外と苦戦するものである。

帽子は簡単とは言えないが、とてもよく頑張ってくれた。その刺激があつてか、他の学生が後期のスカート布の残りで帽子を作りたいと言っている。いい刺激となっているようである。好きなものを好きなだけ作るのは楽しいものである。そのためにも、今後もこの実践活動を続けてゆきたいと考えている。

最後に、この活動に参加してくれた4人の学生に心から感謝の意を表したい。

7. 参考文献

- 1) 菊永典子：リフォームの縫製指導、就実論叢、第42号（2013）
- 2) 菊永典子：針仕事や高齢者衣服に関する短大生の意識、就実論叢、第37号（2007）
- 3) 菊永典子：被服実習指導の現状と今後の課題、就実論叢、第39号（2010）
- 4) 平成20年度全国家庭科教育協会研究調査報告書
- 5) 西岡敦子：短期大学における衣服関連実習の効用、繊維製品消費科学会誌、No2、P.121（2012）
- 6) 日本家政学会被服構成学部会：『楽しくスクールソーイング』（2012）
- 7) ブティック社：『一日あればできちゃう夏服』（2010）
- 8) 日本ボーグ社：『かわいいシュシュ』（2009）
- 9) クロバー社：『FEMALE』SPRING(2010)